

津山洋学資料館の研究機能をより充実させて



東京大学 史料編纂所教授 山本 博文さん

山本博 新しい津山洋学資料館の近くにわたしの実家はあります。8月に帰省した時に散歩に出掛けてみました。資料館は町並みにすっぽり納まる感じで建っていますが、敷地内に入るとガラッと景観が変わります。外は和、中は洋という感じで、まるで出島に迷い込んだような空間です。「葉草の小道」などもあり勉強になります。いろんな人に来てほしいですね。

先ほど「ここで何をやるのか」といった話が出ていましたが、この資料館から津山洋学、津山の学問を広めてほしいと思います。津山には貴重な歴史的資料が多くありますので、資料館の研究機能をより充実させてほしいですね。

今年の秋、国民文化祭が岡山県で開催され、津山でも洋学シンポジウムなどが開かれます。わたしも機会があることにあるような場所です。津山のPRをしていこうと思っています。

山本一実家が作州城東屋敷の向かいにあります

山本一実家が作州城東屋敷の向かいにあります。昔、火事に遭い、古い城東の町並みの雰囲気から外れた建物の一つになってしまったのですが、城東町並保存地区内にはそういった家が結構多いんですね。これではせっかくの津山洋学資料館も活かしてこないので残念に思います。

まちづくりというものは全体を見ないとうまくいきません。例えば、誰も住んでいない家なら市が買い取って整備するなど、いろいろな工夫をしてほしいですね。

統一された町並みにしないとうちでも違和感が生まれます。新しい津山洋学資料館に違和感があるのではなく、古い町並みの中に突然自動販売機があつたりすることなどが違和感を生んでしまうのだらうと思います。

両親はまだ健在なので、年に2、3度帰省します。津山へ帰る度に資料館を訪れてみたいと思っています。

全体を見て統一感のあるまちづくりを



山本一行法律事務所 弁護士 山本 一行さん

津山だけでなく県内施設と連携した観光を



立命館大学 経営管理研究科教授 杉山 慎策さん

杉山 美作の国ができてあと3年で1300年。これとタイアップした継続的なイベントなどを考え、点を線や面に広げていくべきです。

また、津山洋学資料館は大変すばらしい施設ですが、一般受けは難しいのではないかと感じています。岡山県は教育県ですので、津山洋学資料館だけでなく、閑谷学校や大原美術館などの県内にあるほかの施設と連携しながら、観光を考えていってはどうかでしょうか。それと、近隣住民と緊急の場合以外は、城東町並保存地区を車乗り入れ禁止区域にしてはどうかと思っています。

大変話題となっている津山ホルモンうどんですが、最近「東京で食べられる所はないの？」とよく聞かれます。ぜひ、津山のお店から東京に出店してほしいと思います。最後に途方もないお願いですが、お城あつての津山、やはり「津山城復元」という大きな目標を持つてほしいです。

「津山」に「も」と自信を持つていい



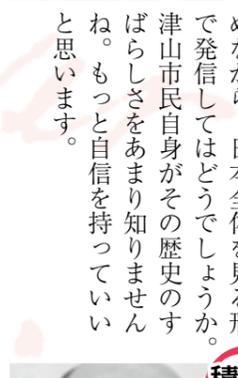
青山学院大学 経営学部教授 三村 優美子さん

三村 2度、3度と訪れてもらうためには企画力を高める必要があります。大きな企画だけでなく、小さな企画の連続もいいですね。このすばらしい資料館をどう活かしていくか、皆で協力し、知恵を出し合う必要があるでしょう。

また、アクセスの問題が気になっていきます。お城のある中心部から少し距離がありますが、すし、細い旧出雲街道にはスピードを出した車が行き交っています。住民の皆さんが不便さを感じないようにしながらも、気軽に訪れることができるよう、アクセス方法を考えないといけないと思います。

津山洋学は大変な財産です。宇田川・箕作に限るとどうしても小さい話になってしましますが、ほかの歴史人物と絡めながら、日本全体を見る形で発信してはどうでしょうか。津山市民自身がその歴史のすばらしさをあまり知りませんね。もっと自信を持つていいと思います。

「津山の良さを津山の人が知らない」と



朝日旅行 常勤顧問 清水 克之輔さん

清水 津山には観光の素材がたくさんあります。洋学もその一つですが、以前の津山洋学資料館ではなかなか人が呼べませんでした。しかし、新しい津山洋学資料館は見せ方が工夫されており、素材として超一流のものになってきていると思います。今後は、この資料館をどうやってアピールしていくかが大切です。

最近の観光客はインターネットの観光情報を見てやって来ます。観光情報の見せ方を工夫しながら、どんな情報発信していかなければいけないでしょう。

観光客をその土地で受け入れ、その土地で還元し、帰っていただく「着地型観光」に取り組んでいる町は増えていきます。まず第一は、津山の良さを津山の人が知らないといけません。新しい津山洋学資料館も、まずは地元の小中学生を招待して、津山の子どもたちに津山のことをしっかりと知ってもらう必要があります。

皆木 わたしは美術館や博物館の空間が好きなので、津山にもこのような空間ができたことをうれしく思っています

この津山洋学資料館の空間で何が学べるのか、どういった教育効果があるのかを、地元の小中学生や高校生にアピールし、広く意見を聴くことが大切だと思います。

わたしにとっても津山は「県北の雄・津山」であり、あこがれの町でした。しかし、現在の状況を廃れているとは言いませんが、トータル的な観光戦略がちょっと足りていないと感じています。

地方都市再生のためには、うまくソフトを組み合わせ、まちづくり・まちおこし・まちの魅力発信などを一体化し、トータル的な観光戦略を進めていく必要があります。この一体性には微妙なバランスがあり、この微妙な部分で差が出てきてしまっているように感じています。ぜひ積極的に進めてほしいと思います。

トータルの観光戦略を積極的に



経営コンサルタント・歴史作家 皆木 和義さん

佐々木 最近の津山ホルモンうどんの活躍もあり、非常にまちが活性化しているように感じています。

古いものと調和しながら新しくつくられた津山洋学資料館ですが、開放感のあるすてきな建物ができあがったなと思います。ぜひ行ってみたいですね。城東の町並みの中には突然立派な建物があるのではなく、わりと深閑とした印象のものになっていていいのではないかと思います。

洋学というとなかなか難しい印象を受けるので、敷居が高く感じられる部分があるかもしれません。もっとわかりやすい印象があつてもいいかもしれませんね。洋学とはミスマッチかもしれません。城東町並保存地区で2時間ぐらい楽しめるように、津山ホルモンうどんのお店などがあつても楽しいと思います。

高齢者の生活を守る公共の「足」の確保を



福岡大学 教育地域科学部助教授 水沢 利栄さん

水沢 旧出雲街道の町並みに非常にマッチした良い建物だと思います。友人も旧道沿いに古い家を借りて住み始めたのですが、とても住みやすいと言っていました。町並みの魅力が生まれてきているように思います。

アクセスの問題の話が出ていましたが、わたしの両親は市役所のそばに住んでいます。バス停まで1kmぐらいあり、高齢なのでバスを利用することは困難でした。住んでいるところで受けることのできるサービスに差が出てしまっているのは問題です。ぜひ、観光面だけでなく、高齢者の通院や買い物などの生活面にも目を向け、公共の「足」を確保してほしいと思います。

乗り合いタクシーのような、電話での予約をもとに、柔軟に運行ルートを組み、希望する時間に送迎してくれるサービス（オンデマンド・タクシー）もあるようです。ぜひ、津山でも考えてほしいです。

楽しむためには「楽しい雑なもの」もあつてほしい



財団法人 日本ナショナルトラスト 顧問 佐々木 建成さん

市長 津山市も長い歴史を重ねる中でいろいろな縁を重ねてきました。行政はそういった縁に支えられ、ともに前進するものだと考えています。

市政アドバイザーの皆様は津山市と深い縁で結ばれている方ばかり。市政発展のための貴重なご意見、ふるさとを思う気持ちをお聞かせいただき、大変ありがとうございます。まちの元気は関係する者が元気でなければ生まれません。3月19日に新津山洋学資料館は正式オープンします。鶴山公園は「日本の歴史公園100選」、阿波地域は「にほんの里100選」に選ばれています。また、城下町の「歴史的風致維持向上計画」が全国で11番目に国の認定を受けました。そして、名を上げた「津山ホルモンうどん」はかつてない盛り上がりを見せています。このように新しい「芽」も出てきていますので、これからも忌憚のないご意見をお聞かせください。

まちの元気は「皆の元気に支えられている」



津山市長 桑山 博之